

東北-九州で乗換運行

第一貨物

久留米運送

「特積みで初の試み」

第一貨物（本社・山形市、武藤幸規社長）と久留米運送（同・福岡県久留米市、二又茂明社長）は一日、第一貨物天童支店（山形）―久留米運送飯塚支店（福岡）間で幹線共同運行を開始した。中継地で両社のドライバーが互いの車両を乗り換える。特積み業界で初の試みだ。（丸山 隆彦）

両社が専用の大型トラクタ（茨木市）でドライバーがトラックを一台ずつ用意。を入れ替わり、目的地までそれぞれが天童支店、飯塚支店を出発。中継地点の北大阪トラックターミナル（北大阪夕、大阪府）へ短縮③積み替え回数削減による品質向上④積載



相互に違う会社のトラックに乗る第一貨物と久留米運送のドライバー（一日、北大阪トラックターミナル）

効率の向上―が目的。

JTLの枠組みを活用

両社とトナミホールディングス（本社・富山県高岡市、綿貫勝介社長）の三社が出資するジャパン・トランス・ライン（JTL、本社・東京坂田昭雄社長）の運行部会で検討を進めてきた。今回の共同運行では、トラックの相互利用に関する国土交通省連達（詳細は次週10月15日号でお伝えします）の要件を満

たす協定書を作成。その証書をタッシュボード上に置き、外から見えるようにしている。「国交省貨物課などに相談し、問題がないことを確認した。特積みでは初の試み（第一貨物）。

まずは上下一便から始め、運行状況を検証しつつ二便体制に移行させる。

天童支店から飯塚支店に向かう便でリードタイムが半日短縮。「荷主」社内で十分賄える（同）荷量があり、中継地で積み替えの手間が省ける。夜間に天童支店を出た第一貨物の車が翌朝、北大阪夕に到着。飯塚支店から来た久留米運送のドライバーに交代し、積み替

えなしで出発。その日のうちに飯塚支店に着く。

一方、久留米運送では飯塚支店発・北大阪夕経由の荷物で東北向けが少なく積み替えが必要なために、リードタイムはそのまま。荷台の空きスペースは北大阪夕で互いに貨物を補充し合うことで、積載率は常に100%にする。労働時間短縮で安全対策も強化する。

トナミ、久留米でコンテナ輸送も

また、トナミ運輸（本社・富山県高岡市、綿貫勝介社長）と久留米運送の間で七月から、鉄道を利用した北陸から九州へのコンテナ輸送も開始。JTLの組織を活用し、三社の取り組みを進展させていく（第一貨物、久留米運送）。